

# 日本写真学会・写真感光材料工業会共催 2023年度 PHOTONEXT 技術アカデミー

日本唯一最大スケールのプロと写真ビジネスのための展示会&セミナー『PHOTONEXT 2023』がパシフィコ横浜で開催され、これに合わせ、日本写真学会と写真感光材料工業会は、「出力と表現技術」「最新カメラシステムの技術動向」についての技術アカデミーを実施しました。

主催：(一社)日本写真学会、写真感光材料工業会

後援：株式会社プロメディア

協力：(公社)日本写真協会、(一社)日本写真文化協会、(協)日本写真館協会、(一社)日本写真映像用品工業会  
日本フォトイメージング協会

日時：2023年6月6日(火) 10:00~17:00 (受付開始:9:30)

会場：パシフィコ横浜 展示ホール 2F 会議室 E24

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい 1-1-1 TEL 045-221-2166(交通案内)/045-221-2155(総合案内)

2023年度 PHOTONEXT 技術アカデミーは、定員一杯の参加を頂き、盛大に執り行うことが出来ました。ここに、アカデミーの実施状況とアンケートで頂いた参加者の皆様からの声を紹介します。

アンケート結果

(1) 総合満足度\* ; 90% (満足(100%)率 : 76%)

[\*アンケート質問 : 満足(100%)、まあ満足(80%)、普通(60%)、やや不満(40%)、不満(20%)]

(2) 総合満足「自由記入欄コメント」

評価別		記述
満足	1	バーチャルプロダクションに NFT などポップな議題が多く興味深かった。講演 2 の質疑が出来なかったのが残念だった。
	2	最新のトピックスを取り上げている。
	3	入会以来、本セミナーに出席し続けていますが、毎回実に興味深い講演を聞かせて貰い申し分ないと思います。
	4	仕事に近いジャンルの講演は為になる話だった。又、専門外の話に触れる機会になった。
	5	NIKKOR Z 26 mm f/2.8 が欲しくなりました。
まあ満足	1	ネイチャーフォト (星景写真、植物・昆虫・鳥・動物など) の撮影時や撮影後の処理に関する技術的なテーマを希望します。
普通	1	特定のメーカーによらず、第三者から見た各社の技術についての解析・レビューなどがあると面白い。

(3) 今後のテーマへの希望・提案「自由記述欄の記載」

評価別		記述
満足	1	DeepLearning 画像改善、携帯カメラとデジタルカメラ比較
	2	具体的なテーマは思いつきませんが、写真・映像に関わる最新技術をカメラ・レンズ・ツールの枠を超えてこれからの将来のに関する話を聞きたい。
	3	ネイチャーフォト (星景写真、植物・昆虫・鳥・動物など) の撮影時や撮影後の処理に関する技術的なテーマを希望します。
	4	PHOTONEXT サイトからセミナーにたどり着くのが大変、有料セミナーが他にもあってどれがどれかわかりにくかった。
	5	これからも最新のトピックスを取り上げて欲しい。

## 【講演プログラム】

### 【セッション I : 出力と表現技術】

#### 講演 1 : 「プロラボクリエイト」のプロ仕上げ銀写真プリントサービス

高品質な仕上がりを求めるプロ写真家や写真愛好家の方々に、プロフェッショナルな写真サービスを提供するプロラボ。「プロラボクリエイト」は、長年培われた銀写真プリント方式を中心に、「作品」づくりを目的とした写真プリントや、写真展用の作品制作などのサービスを行っている富士フイルムグループのプロラボです。クリエイトが手がけるプロ仕上げプリントの高品質さや、画像を見るプロの視点からの作品づくり・作品発表にあたってのアドバイス、まだプロラボを利用したことのない方のためにプロラボを使いこなすノウハウのポイントなどについてご説明いたします。

富士フイルムイメージングシステムズ株式会社 クリエイト営業部  
稲葉 誠之 氏



## 講演 2：個人でバーチャルプロダクションスタジオを導入



映像の世界で近年広まりつつある技術に、大型 LED ディスプレイを利用した「バーチャルプロダクションスタジオ」があります。例えばロケーション撮影は現場へ行くことで成立します。これに対してバーチャルプロダクションスタジオでは、時間や空間の制限、天候や移動等の外的要因に左右されずに、スタジオの中に仮想空間を作り出して自由に撮影が可能になります。

この度私は写真館として「バーチャルプロダクションスタジオ」を導入しました。次の未来な映像技術として「動く背景」あるいは「仮想空間」を演出できるスタジオを持った写真館のコンセプトを解説いたします。

イメージバンクナカジマ株式会社 代表取締役・写心家  
中嶋 秀磨 氏

## 講演 3：鉄道写真の新世界へようこそ

- 美しさを捉える技術とその表現力

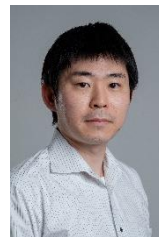


この講演会では、カメラの特性を活かした撮影方法や技術を紹介します。まず、近年賑わいをみせる多種多様なカメラ構造やレンズの種類、ピント合わせの方法、シャッタースピードや ISO 感度の設定など、実際の撮影現場に則した方法を解説します。次に、鉄道写真で特に重要な要素である、撮影スポットの選び方など、写真を交えて詳しく解説します。さらに、カメラの特性を活かした撮影についても、具体的な事例を挙げて説明します。たとえば、ドローンの撮影方法や、小型センサーを活かした撮影など、実際の写真とともに解説します。参加者は、カメラの設定や撮影方法について理解を深め、より魅力的な鉄道写真の撮影技術を身につけることができます。

鉄道写真家  
煙道 伸麻呂 氏

## 【セッション II：最新カメラシステムの技術動向】

## 講演 4：高倍率超望遠ズームレンズ「SIGMA 60-600mm F4.5-6.3 DG DN OS | Sports」の開発



シグマは、高倍率超望遠ズームレンズ「SIGMA 60-600mm F4.5-6.3 DG DN OS | Sports」を 2023 年 2 月に発売しました。本製品は標準域の 60mm から超望遠域の 600mm まで広いズームレンジを持つ利便性の高いズームレンズでありながら、ズーム全域で高い光学性能を発揮します。また新開発のリニアモーター「HLA(High-response Linear Actuator)」による高速・高精度の AF 性能や、新開発のアルゴリズム「OS2」によるワイド端 7 段、テレ端 6 段の強力な手振れ補正機構など、撮影チャンスを逃さず捉えるための機能が強化されています。本講演では「SIGMA 60-600mm F4.5-6.3 DG DN OS | Sports」の特徴や搭載技術について紹介します。

株式会社シグマ 開発本部 開発第 2 部 第 2 課  
佐藤 良祐 氏

## 講演 5：キヤノンのディープラーニング画像処理技術



我々は従来の画像処理手法とは異なる、ディープラーニング技術を用いた画像処理に取り組んでいます。キヤノンは、昨年にディープラーニング画像処理技術、今年 4 月にディープラーニングアップスケーリングを提供しています。本講演では、従来の画像処理の課題と、その課題に対するディープラーニング技術を用いた我々の取り組みについて紹介します。

キヤノン株式会社 イメージコミュニケーション事業本部 統括第二開発センター  
小笠原 努 氏

## 講演 6：薄型パンケーキレンズ「NIKKOR Z 26mm f/2.8」の開発



ニコンは、NIKKOR Z レンズとしては最薄・最軽量のフルサイズ対応レンズ「NIKKOR Z 26mm f/2.8」を、2023 年 3 月に発売しました。機能面では 0.2m までの近接撮影を可能とし、耐衝撃性や防塵・防滴性も一切妥協をせずに設計を行いました。外観デザインにもこだわり、幅広いシーンへの対応、毎日持ち歩きたくなるパートナーレンズに選んでいただけるよう高級感を意識して仕上げました。本講演では、こだわり抜いて設計した「NIKKOR Z 26mm f/2.8」について紹介をいたします。

株式会社ニコン 光学本部 第二開発部 第二設計課  
長岡 弘仁 氏

## 講演 7：ミラーレス一眼がもたらしたものの



2008 年、かつて日本のカメラ産業を牽引してきた一眼レフとは全く異なる方式のレンズ交換式カメラが“ミラーレス一眼”の名でパナソニックからマイクロ 4/3 規格の「ルミックス-G1」として発売されました。年を重ねるごとに参入企業も増え、APS-C 判、35mm 判フルサイズ、中判というように撮像素子サイズの拡大と高画素化が図られてきましたが、今やプロ用の高級機からアマチュア用の普及機に至るまで、ミラーレス一眼が一眼レフカメラの市場を席卷するまでになりました。ここではルミックス G1 から、最新のプロ用機までを使った 1 ユーザーとしての立場から、ミラーレス一眼がもたらしたものは何だったのだろうか、改めて考察してみます。

日本カメラ博物館 運営委員  
市川 泰憲 氏